



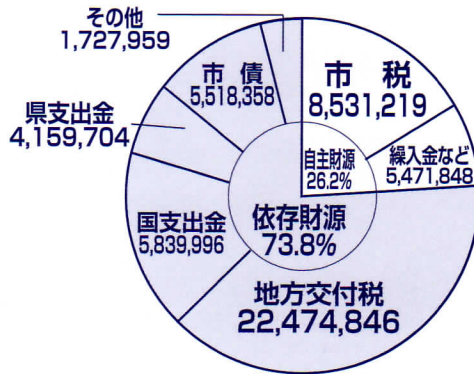
9月定例会

一般会計 **537億2393万円**

公債費負担比率 **17.2%**の
“警戒ライン”

特別会計は **275億2547万円**

25年度一般会計決算 歳入 (単位:千円)



25年度決算を認定

8月25日に開会した9月定例会において、前年度の決算認定を審議しました。平成25年度は一般会計が537億2393万円、特別会計は275億2547万円となりました。翌年度への繰越財源を除いた実質収支は一般会計・特別会計合わせて25億1250万円の黒字を計上しました。最終日の9月19日に採決があり、一般会計・各特別会計ともに認定されました。

公債費負担比率は17.2%と、24年度より0.2%悪化し、財政運営上の「警戒ライン」にあります。限りある財源の有効活用を認識しながらの行政運営が求められます。

※公債費負担比率・・・財政構造の弾力性を判断する指標の一つ。15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされる。

9月17日
青山ゆたか
決算特別委員会
総括質疑要旨

スポーツの各事業について

質問 25年度は「スポーツ立市よこて」の元年であった。市長の総括は？

答弁 あらゆる機会をとらえ「スポーツ立市」のキーワードを発信した。各種スポーツイベントや合宿の継続、新規の合宿誘致など一定の前進があった。一方で市民の中で「スポーツ立市」を意識した具体的行動の広がりには今少し時間を要すると考えている。

質問 議会が提案し、制定されたスポーツ立市条例の背景には「部局横断」の意味が込められていた。スポーツ振興課だけでなく、庁内全体で取り組むくみをつくる時期だ。

答弁 「部局横断」という課題があるからこそその条例制定だったと思う。来年度に向けて組織のあり方を再検討しなければならぬ。

質問 市民に対してのPRが不足している。事業実施を知ってもらおうと満足度を高めるために市HPのトップにバナーをつけることを提案する。

答弁 改善しなければならぬと思った。指示する。

質問 スポーツ立市「社」宣言をした企業がある。そういう民間の取り組みを紹介し、広めることも行政の役割だ。また、数年前に箱根駅伝を走った横手高OBもいる。そういう人的資源を活用していくべきだ。

答弁 行政主導ではなく、民間・市民がスポーツ立市という意識を醸成していくための役割を考えながら今後進めていく。



▶高校野球
サマーキャンプ
慶應VS東北

